



GOOD NEWS ときのコエ

War Cry

2月号

福音版
2019
February
No.2779

二〇一九年 二月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

人生の伴走者は誰ですか？

藤井 健次

二〇一七年二月に岡山県笠岡市のマラソン大会で、珍しいハプニングがありました。それは、小学三年生から六年生の走者二百六十人のうち、二百六十二人が失格となり、最終走者の児童一人が優勝した、というものでした。なぜこのようなことが起きたのでしょ

うか。それは、三キロコースの誘導表示がわかりにくく、最後の一人以外が、三キロに満たない道を行ってしまったからでした。そして、離れて走っていた最後の児童だけが定められたコースを完走し、結果的に優勝となったのです。私は、ちよつとイソツブ

寓話「ウサギとカメ」を思い出しました。

ではなぜ、最後尾の児童だけが正しいコースを走ることができたのでしょうか。この児童には、三キロコースをよく知るスタッフが伴走していたからでした。

わたしたちの人生は、マラソンのようです。それぞれに定められたコースを、ゴールを目指して走り続けます。時としてその道は、

平らな道もあれば山もあり、谷を通ることもあります。また、照り輝く太陽や月の光のもとで走ることもあれば、冷たく暗闇に閉ざされた中で進んで行かなければならないこともあります。花咲く道、茨の道、陥没した道もあります。それ以上に、神によつて備えられた祝福の道から何とかしてわたしたちを悪へと誘い、滅びへと追いやろうとするサタンの道さえ、わたしたちの前に敷かれています。

自分に与えられた人生の道をわたしたちはどのような歩めばよいのでしょうか。

■第一に、わたしたちは自分の人生の歩むべき道を選び取る必要があります。神はわたしたちに語りかけておられます。

「見よ、わたしは今日、命と幸い、死と災いをあなたの前に置く。わたしが今日命じるとおり、あなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒めと掟と法を守るならば、あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あなたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される。」(申命記30章15、16節)

あなたが創造された神は、あなたが「命と幸いの道」を選ぶことをお望みになり、祝福された道を約束してくださっています。それは、あなたの創造主であり、この世に生をお与えになった父なる神を崇め、愛し、そのお心に適う道に歩むということです。

■第二に、神と共に生きることです。

主イエス・キリストは、別名「インマヌエル」とも呼ばれています。これは、「神はわたしたちと共にいる」という意味です。わたしたちの神は、わたしたちの人生の中に介入され、

いつでも、どこにいても一緒に歩んでくださる神です。

主イエス・キリストは弟子たちに言われました。

「わたしは世の終わるまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイによる福音書28章20節)

神であり、救い主である主イエス・キリストが、わたしたちと共にいてくださる、人生の伴走者となると言われていたのです。

■第三に、安全のため、人生の途上にある道路標識に目をとめ、守るということです。

聖書は、語っています。「どのようにして、若者は 歩む道を清めるべきでしょうか。あなたの御言葉どおり道を保つことです。」(詩編119編9節) 正しい道、命と幸いに至る道、祝福された道、安全な道を歩むためには、導きと教えを必要とします。

この年、あなたの人生に、いつでも、いつまでも共に歩んでくださる神が、あなたの伴走者となってくださいますように。そして、人生の指南書である聖書を手になされ、命と幸いに至る道を歩まれますように、と心から願っております。

(救世軍士官(伝道者))



創造主である神様のすばらしさを伝えたい

キャンプスタッフの働きを通して

ダニエル(以下ダン) 救世軍の中で成長した私は、小さい時からイエス様のこと、聖書のこと、読書が好きになりました。読書が大好きなので熱心に聖書を読み、神様の愛も知っていました。

そして十三歳の時、イエス様が十字架に架けられている様子を描いたビデオを見たとき、イエス様の苦しみと痛みを強烈に実感しました。その時から、神様のために生きたい、と思うようになりました。

キャンプスタッフとして働く中で、救世軍の夏のキャンプのスタッフとして働いたことは、とても貴重な経験でした。高校から大学にかけて八回の夏をセバゴ・キャンプ(以下セバゴ)で過ごしました。クリスチャンの仲間と子どもたちのために時間を費やす中、子どもと青年のために働きたい、と強く思うようになりました。セバゴはまた、演劇などアート(芸術)への情熱を養うのに役立ちました。聖書のお話を初めて聞く子どもたちへの効果的な方法の一

つは、スキット(短い劇などの演劇です。セバゴはそれをJesus Theatreと呼んでいました。毎週、キャンプの参加者全員が集合し、音楽と劇でイエス・キリストの人生の物語を演じました。神様は劇を通して青年の心を導いておられました。**リエン** 私は、大学でダンに会うまで救世軍のことは知りませんでした。小さな農村で育ち、家族はナザレン教会の信徒です。教会の日曜学校や夏のキャンプに

大学での出会いから……

参加し、十二歳で洗礼を受けました。その時、自分の人生をイエス様に完全に任せたいと思いました。私も色々なキャンプ、伝道プログラムに参加し、働きたい。子どものための働きが大好きになり、これが、神様に私にしてほしいと願っている働きだと確信しました。大学で中学校の科学の教育課程を学び、科学の教師になることを希望していましたが、神様の私の人生への計画は違うものでした。



ダニエル・ラボシエール
リエン・ラボシエール

2018年8月末、米国から救世軍の信徒伝道者(宣教師)として来日。子どもや青年を対象にした活動をおこなっている。

ダン 私はリエンと同じ大学で、演劇を学びました。ドラマの授業や、裏方の仕事、演劇やミュージカルでのステージ演劇、そして最終的には自分のショーを演じ出す機会に

恵まれました。大学三年から英文学を学んだのですが、これが、演劇に役立ち、自分の作品を書くことにつながりました。しだいに、演劇と執筆への情熱は神様からのもので、青年に演劇の創造性を教えることが、神様が私に願っておられることだと気づきました。

また、友人を介してリエンに出会い、彼女がセバゴで働くことを考えていたので、ぜひ、と勧めました。私は、すぐに彼女がとても勤勉で、信じられないほど楽しい人であることがわかりました。多くの時間を共に過ごすうち、互いに一緒にいるべき存在だと思いました。**リエン** 初めてセバゴにダンと参加した時、すぐに彼は私の親友になりました。その夏、神様が、わたしたちが二人で子どもや青年のために働くよう導いておられることを確信しました。

その後数年間、学校でのさまざまな伝道活動や、それぞれの教会のキャンプなどに参加して、お互いの視野を広げ、また自分たちの可能性を深めました。そのような大学時代が過ごせたことに感謝しています。**ダン** 神様はわたしたちそれぞれに、海外で奉仕することを示しておられましたので、二〇一五年一月に結婚し、新婚旅行の代わりに、その期間と資金を使ってケニアで短期間の伝道旅行をしました。そのような形で結婚後の数日乗り切ることができれば、どこにいても結婚を全うすることができると思っていました。**リエン** ケニアでは、キティトゥニの美しい村に滞在しました。救世軍が運営するOTHERSという貧困を脱するための職業支援で働いている多くの女性たちに出会いました。現地の救世軍に通い、ダンは時々、メッセージの依頼も受けました。救世軍は世界中で生き生きと活動していますが、特に、ケニアのような貧しい国では、信仰の喜びがとてもはつきりしていました。海外宣教への確信はケニアで与えられました。



(写真上)
二人が出会った頃
(写真下)
伝道旅行で滞在したケニアで



海外宣教への備えに導かれ

リエン 帰国後、ダンには救世軍の小さな小隊(教会にあたる)で働き、私は近所の学校で働きました。しばらくすると、ニューハンプシャー州マンチェスターにある小隊での働きに招かれたので、転居し、二人で働き始めました。

この小隊は、子どもたちのための放課後プログラム「キッズ・カフェ」を積極的にこない、毎週月々木曜日まで子どもが八十人集まっています。温かい食事を楽しんだり、スポーツをしたり、アートプロジェクトやコンピュータラボで宿題をしたり、というプログラムでした。週末は、「ティーン・ナイト」という市の活動として、毎週金、土曜日の夕方、小隊を十代の青年たちに開放しました。それは、青年が安心して友達との時間を過ごせるようにする働きでした。その地域は治安が悪く、救世軍は、青年たちを暴力や麻薬から守るための大切な場所でした。住民の多くが、世界各地から集まった難民で、ドミニカ共和国、ハイチ、タンザニア、ソマリア、ネパール、イン

ドなどから来ていた家族を支援しました。そこでイエス様を中心にしたコミュニティの重要性について多くを学び、さまざまな文化、宗教、伝統が溶け合う中で、海外宣教への備えがなされたのでした。

ダン 正直、わたしたちはずっとそこで働くと思っていましたが、わずか二年の後に、神様は海外宣教の道を開いてくださいました。

海外宣教への書類を申請した時、世界のどの地域に行きたいか、との質問がありました。神様がわたしたちを必要としている所へ行きたい、と思ったからです。結果、「日本へ」との回答がなされて、かなりの衝撃を受けました!けれども、祈りと熟考の時を過ごし、日本がわたしたちにとって完璧な場所だとはっきり示されました。



日本へ……アートを通して伝道したい

リエン 私の関心はいつでもアートです。高校では、絵画や彫刻、陶芸の基本的な授業を受け、大学では、アートを通して礼拝するイベントを主催し、コーディネートしました。絵で表す祈りは、主が私に与えてくださった賜物ですし、それを教えることも大好きです。

マンチェスターでは、女性グループのために「ペイン・ナイト」を開催しました。この世界を創造された陶器師、芸術家である神様の御業は、私にインスピレーションを与えてくれます。私は、ビジュアル・アーツ(視覚芸術)を日本の救世軍の働きにお届けしたいと思っています。アートを通じて礼拝するすばらしさもお伝えしたいです。



(写真上) 海外宣教のための申請書類に添えた写真
(写真下) 礼拝で説教にあわせて絵を描く様子

ダン 私は、ワクワクするほどの想像力を常にもっています。若い頃から、私の周りの世界とは全く異なる物語やキャラクターをイメージの中で設定していました。そして、言葉や演劇を通して頭の中のイメージを他の人に伝える方法を見つけることが大好きです。創造性には、人々に恐怖を与えずに、思考的な方法や新しいアイデアを示すための、すばらしい力があります。

私は非常に内向的ですが、演ずることで自分の内向的な性格を変化させることができます。また、私の演技は、神様を礼拝するためのものなので、観客は天と地の創造者である神様だと思っっていると、何人の人が見たいようにと気にしないといわれるのです。

日本では、絵画、ダンス、ドラマ・プログラムなどの創造的なものを通して、青少年への伝道の働きを広げていきたいです。彼らにそのような創造する機会を提供することは非常に重要です。神様は創造性を通して語られます。青少年の創造性を養うことのお手伝い

ができれば、と思っ

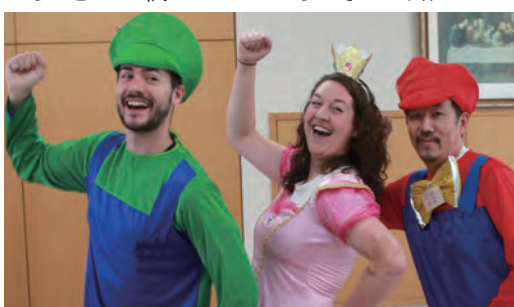
リエン この聖書の言葉は、わたしたち二人にとって、とても大切なものです。

「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者として、くださるように。また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」(エフェソの信徒への手紙 3章16〜19節)

わたしたちはこの言葉を結婚式で読み、わたしたち

の結婚がキリストの愛に根ざしたものでありたい、という希望を表すために木を植えました。そして、そのようになるよう祈りつつ家族や友人たちが木の鉢に土を加えてくれました。わたしたちの根が絶え間なく深く深く成長することがわたしたちの望みです。

これからも神様の導きに信頼し、神様を選んでくださった道を謙遜な思いで歩みたいと思っています。神様はいつでも最善をなさる方からです!
(救世軍・信徒伝道者)



どこかでお会いできるのを楽しみにしています!
(子ども会での様子。右端は青少年部長石坂臣司少佐)

キリトリ

ご住所

ご氏名

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。

□ キリスト教についてもっと知りたいです。

□ 『ときのかえ』の購読を申し込みます。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 プライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区)

http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈エストニア〉エストニア大統領、救世軍の施設を訪問

2018年12月、エストニアのケルスティ・カリユライド大統領は、エストニア第三の都市ナルバにある救世軍の小隊(教会にあたる)を非公式に訪問されました。小隊では、聖書の学び(信仰入門プログラム「アルファ・コース」)をおこなっていました。大統領は参加者と時間をかけて話をし、約40分の訪問の間に、小隊でおこなわれている幅広いコミュニティ活動についての詳しい説明も受けられました。(エストニア語で救世軍は、Päästarmee と表記)



〈ポーランド〉ファーストレディが救世軍の活動を視察

12月、ポーランドのアガタ・ドゥダ大統領夫人(下写真中央)が、ワルシャワでの募金イベントを視察し、チャリティ・バザーコーナーの救世軍を訪問されました。ファーストレディは、救世軍がおこなっている、貧しい人々に対する奉仕への感謝を述べ、夏におこなわれる子どもや青年を対象としたキャンプなど、さまざまなプログラムについて質問されました。(ポーランド語で救世軍は、Armia Zbawienia と表記)



〈日本〉救世軍月島会館(救世軍月島小隊及び救世軍本営職員住宅)落成

2018年12月15日(土)、月島・神田・京橋小隊(教会にあたる)合同の金管バンドによる奏楽のもと、司令官ケネス・メイナ大佐の開館宣言によって、テープ・カットがなされました。(写真左より、月島小隊長鈴木雅子少佐、軍国女性部会長シェリル・メイナ大佐、東京東海道連隊女性部書記石川節子少佐)

その後、書記長官藤井健次大佐補の司会、司令官の司式で落成式がおこなわれ、席上、株式会社三井ホームデザイン研究所、三井ホーム株式会社、建築技術支援協会阿部市郎氏に感謝状が贈呈されました。



最新技術を用いた木造3階建ての月島会館は、1階が月島小隊、2、3階が救世軍シーサイド・ハウス(小隊士官宅及び救世軍本営職員住宅)として使われます。落成式後、1、2階が公開され、見学の時がもたれました。

救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man



救世軍は英国に国際本部を置くプロテスタントのキリスト教会です。創立者は英国のメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865年、東ロンドンのスラム街で、どのような境遇の人でもイエス・キリストを信じるならば救われる、と伝道を始め、飢えている人には食べ物を、家のない人には宿泊場所を、仕事のない人には職業の斡旋を、アルコールにおぼれる人や搾取されている女性たちには、回復・更生のための施設を提供し、物心両面からの救いを目指しました。やがてこの働きを推し進めるために、軍隊流の組織を取り入れ、「The Salvation Army」と名づけました。



日本では1895(明治28)年に働きが始まりました。日本人で最初に士官(伝道者)になった山室軍平は、社会問題に取り組み、廃娼運動や結核療養所設立などに力を尽くして、キリスト教界だけでなく、明治~昭和初期の社会福祉史にもその名を残しました。

現在、日本の救世軍では、43の小隊と、19の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して、働きを進めています。

社会鍋は、救世軍の代名詞のような募金活動ですが、一昨年末から募集した、第二回救世軍社会鍋俳句コンテストに、川越市立福原中学校の一年生全員(当時)が応募してくれました。昨年12月6日、担当者が福原中学校を訪問し、作品が収められた俳句集と記念品を応募者全員に贈呈しました。(写真 国語科山本純人先生と救世軍社会福祉部長西村保少佐) 現在、第三回社会鍋俳句コンテストの作品募集中です。(締め切りは3月31日。お問い合わせは救世軍本営 社会鍋俳句コンテスト係まで)



(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではおられません。これらの問題ではお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

▼発行日 福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行除く七月

▼定価 福音版・一部 四〇〇円
広報版・一部 一〇〇円
クリスマス特集号(十一月一日号) 一部 一〇〇円

振替・〇〇二八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍
印刷人 代表者ケネス・メイナ

編集人 寺澤 真由子

〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二丁目十七

電話 東京(03)三三七〇八八二

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社